

陶祖公園内窯跡の歴史

瀬戸窯の始まりは、10世紀後半の平安時代にさかのぼります。鎌倉時代に生産された施釉陶器「古瀬戸」は、当時の国産高級陶器として国内に広く流通しています。その後、鎌倉・室町時代の「古瀬戸」から戦国時代の「大窯」製品の生産、安土桃山時代の美濃窯等への工人移動による衰退を経て、江戸時代には尾張藩による工人召喚により瀬戸窯は再び活況を取り戻します。

江戸時代の瀬戸窯は、この陶祖公園周辺を含む瀬戸川上流部より始まります。その後中心は北島・南島・洞島に移り、江戸時代後半になって再び郷島や陶祖公園周辺の宮脇島に窯が復活します。また、六角陶碑のあるこの地は禅長庵峯と呼ばれており、陶碑文では陶祖藤四郎晩年の庵があった場所とされています。

陶祖800年祭事業として、公園内にある窯跡の確認調査を行い、4ヶ所で窯跡が見つかっています。

夕日窯跡

公園内で最も古い窯跡は、陶祖碑の南側付近にある夕日窯跡で、戦国時代(15世紀末～16世紀初)に登場した地上式の大窯と考えられます。しかし、この付近では、古瀬戸製品も出土しており、大窯に先行する半地下式の窯が存在した可能性もあります。



夕日窯跡遺物出土状況



夕日4号窯の一部



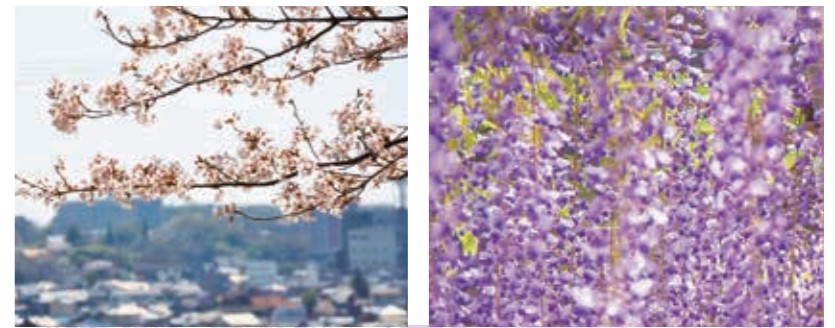
夕日5号窯

日影窯跡

江戸時代前期(17世紀)の日影窯跡は陶祖碑の西側斜面にあります。窯本体は今回の調査では見つかりませんでしたが、当時瀬戸窯に導入された連房式登窯と呼ばれる構造と考えられ、陶器類の生産が行われました。

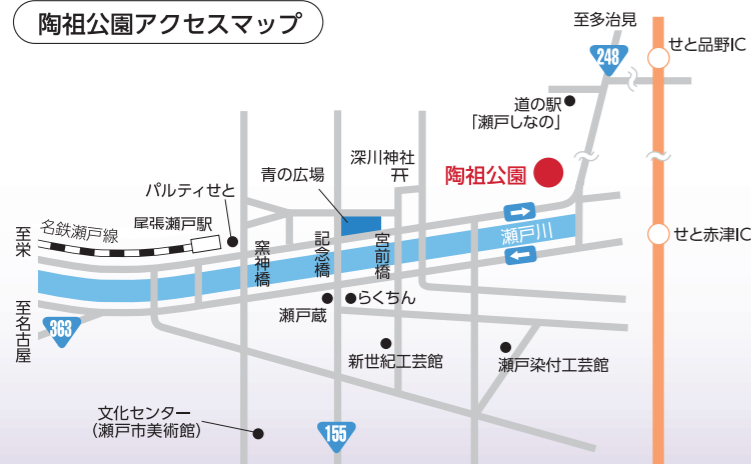
夕日4・5号窯跡

再び窯が操業されるのは江戸時代後期(18世紀末)で、藤棚の北側斜面には夕日4号窯跡、南側には平成25年に発見された夕日5号窯跡があります。4号窯は陶器類を焼成した連房式登窯、5号窯は主に磁器類を焼成した「古窯」と呼ばれる構造です。また、藤棚のある広場の下には、夕日4・5号窯跡で焼成に失敗した陶磁器類や窯道具類などが地表面から2.5m以上の深さまで埋まっています。



陶祖公園
touso kouen

陶祖公園アクセスマップ



- 尾張瀬戸駅から
名鉄バス品野・上品野、名鉄バス古瀬戸経由赤津方面行き「瀬戸公園」降り徒歩1分
- 東海環状自動車道「せと赤津IC」から
東海環状自動車道「せと赤津IC」を出て、直進瀬戸市街へ
- 東海環状自動車道「せと品野IC」から
東海環状自動車道「せと品野IC」を出て、国道363号、国道248号で瀬戸市街へ

瀬戸市都市整備部維持管理課
公園緑地係
☎0561-88-2726

陶祖公園 ～装いも新たになりました～

touso kouen

六角藤棚周辺

1 屋外展示ケース

瀬戸の陶芸作品等を常時展示し、その魅力をお見せします。



2 陶製スツール

瀬戸陶芸協会制作のスツールに腰を下ろして瀬戸の陶芸作品を楽しんでください。

3 トイレ壁面陶板

新たにバリアフリー対応のトイレを整備しました。入口の壁面には瀬戸七釉をあしらった陶板を飾りました。



4 六角藤棚

陶祖加藤四郎左衛門景正の家紋の下がり藤と六角陶碑にちなんで1周約80mの藤棚を整備しました。



六角陶碑堂周辺

5 「瀬戸公園」園名碑

明治43年に開催された陶祖700年の際に瀬戸公園と名付けられました。この園名碑は、公園入口に設置してあったものです。



6 献納祭器窯址之碑

昭和16年11月建立。昭和15年6月10日、檀原神宮において「紀元二千六百年祭」が執り行われました。この祭典に使用された祭器の製作は瀬戸陶磁器工業組合に下命され、この公園内に窯を築き、祭器を焼き上げ、檀原神宮に献納しました。その後、窯は取り壊され、この窯址に碑が建てられました。



7 狛犬を愛でる陶祖之像

瀬戸出身の彫刻家である加藤昭男氏制作の陶祖像を設置しました。



8 六角陶碑

六角陶碑は慶応3年に名工といわれた加藤岸太郎が中心となって製作されました。高さ4.1m、総数39個のやきものが組み合され、陶製の碑としては日本最大といわれています。



9 景登翁之碑

明治24年建立。六角陶碑の建設に尽力した山陶屋の加藤清助景登の没後、瀧藤萬治郎・川本留助ら28人の有志が資金を集めて、寺内信一(半月)に製作を依頼しました。



10 陶柵

明治43年の陶祖700年祭を記念して設置された加藤紋右衛門製作の青磁と瑠璃の陶柵を復元しました。



11 志野焼燈籠

明治5年に製作された志野焼燈籠は、陶製燈籠としては国内最大級の大きさで、燈籠基礎の下にはいわゆる「窯垣」でできた土台があります。



南エントランス

12 園路陶板

六角陶碑堂までの園路にも織部や本業タイルが埋め込まれています。



13 夕日窯跡物原

茶室竹露庵横では、戦国時代の窯で、皿や茶碗の廃棄された「物原(ものほら)」と呼ばれる遺構を保存・公開しています。

裏面参照 →



14 竹露庵

明治19年に、瀬戸の蘭方医が当時の瀬戸村の庄屋や窯元取締役であった山陶屋の加藤清助景登らに相談をして、この場所に移築したものです。同年に有栖川宮様をお迎えしたときに「竹露庵」と名付けられました。



15 陶の階段

階段の蹴上部分の陶板は瀬戸陶芸協会が制作しました。一段ごとに異なる作家の作品を楽しむことができます。



16 園名碑

陶祖公園入口の園名碑は、瀬戸陶芸協会会員が制作しました。織部焼の陶板で作っており、園名の文字は宝泉寺出身の總持寺貫主江川辰三禅師によるものです。

